

やまゆり

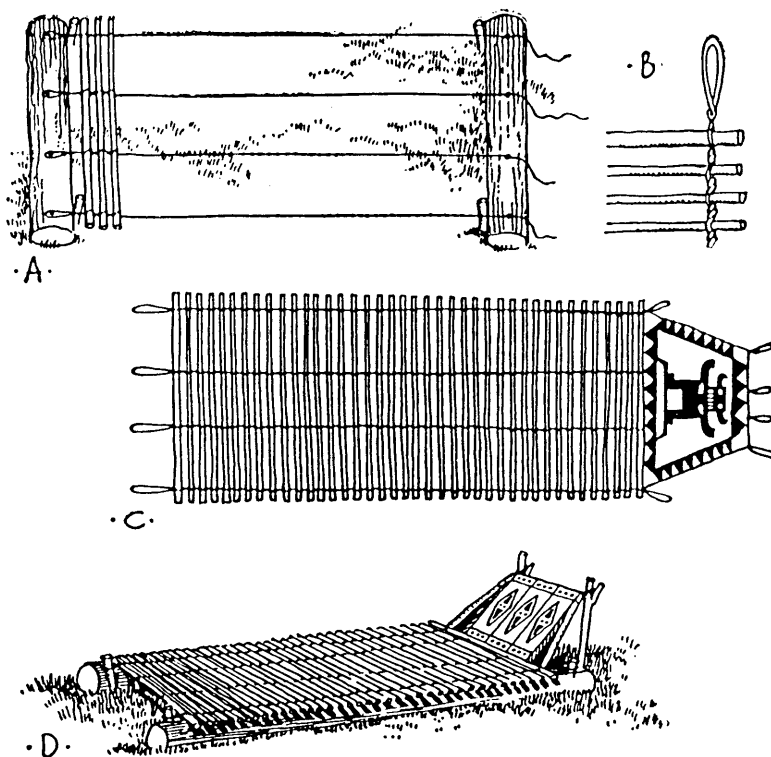


SCOUTING TOWARDS 2001

1997年3月25日発行 第81号

春だ、野に出よう！

… 野外活動に絶好な季節、今年はいろいと工夫をしてみよう …



(アメリカ先住民、柳の枝で作るベッド)

バーナード・メイソン著：「WOODCRAFT & CAMPING」から

平成 9 年 度 各 種 指 導 者 訓 練 開 設 案 内

ウッッドバッジ研修所

課 程	期 別	開 設 期 間	場 所
B V S	第13期	6月 5日(木)～ 6月 8日(日)	日本連盟山中野営場
	第14期	9月20日(土)～ 9月23日(祝)	日本連盟山中野営場
C S	第80期	4月26日(土)～ 4月29日(祝)	日本連盟山中野営場
	第81期	10月 9日(木)～10月12日(日)	日本連盟山中野営場
B S	第78期	4月26日(土)～ 4月29日(祝)	日本連盟山中野営場
	第79期	9月20日(土)～ 9月23日(祝)	日本連盟山中野営場
S S	第32期	10月 9日(木)～10月12日(日)	日本連盟山中野営場

団運営研修所

団 研	第10期	5月 3日(祝)～ 5月 5日(日)	川崎市青少年の家
-----	------	--------------------	----------

キャンプリーダー研修会

C L	第19回	6月 5日(木)～ 6月 8日(日)	日本連盟山中野営場
-----	------	--------------------	-----------

そ の 他

実修所課題研修勉強会	11月 9日(日)	スカウト会館
実修所奉仕訓練勉強会	6月22日(日)	スカウト会館
指導要員(養成)研修会	11月23日(日)～11月24日(祝)	スカウト会館

以上神奈川連盟開設

ウッッドバッジ実修所

B V S	第 13 期	4月29日(火)～ 5月 4日(日)	福岡連盟協山野営場
	第 14 期	4月30日(水)～ 5月 5日(月)	大阪豊中市立青少年野外活動センター
	第 15 期	9月10日(水)～ 9月15日(月)	北海道札幌市西岡キャンプ場
C S	第109期	4月30日(水)～ 5月 5日(月)	愛知連盟新城吉川野営場
	第110期	4月30日(水)～ 5月 5日(月)	京都青少年野外活動総合センター
	第111期	9月19日(金)～ 9月24日(水)	日本連盟那須野営場
	第112期	10月 7日(火)～10月12日(日)	日本連盟那須野営場
B S	第126期	4月29日(火)～ 5月 4日(日)	日本連盟那須野営場
	第127期	4月30日(水)～ 5月 5日(月)	日本連盟那須野営場
	第128期	4月30日(水)～ 5月 5日(月)	静岡連盟浜松地区太田山野営場
	第129期	4月30日(水)～ 5月 5日(月)	兵庫連盟加古川高田野営場
	第130期	10月 6日(月)～10月11日(土)	日本連盟那須野営場
V S 施行	第 32 期	9月10日(水)～ 9月15日(月)	日本連盟那須野営場

以上日本連盟開設

地区だより

横須賀地区

はまっ子キャンプ '96

横浜中央地区

去る1月25日～26日の2日間、横浜65団野営場「善部の森」において、厳寒の中「はまっ子キャンプ '96」が開催されました。横浜中央地区としては、はまっ子フェスティバルに続いての新しい試みとして企画され、多いに注目を集めました。地区内のベンチャー、シニア、ボーイ及びリーダーが一堂に集まりキャンプ生活を楽しみながら11KCへ向けての親睦を図るとともに態勢を整えること、また技能章、特修章課目を実習することによって、その基礎訓練とし、将来的には菊、隼そして富士スカウトへの道を目指しています。

当初、スカウトの参加予定は106名でしたが、インフルエンザには勝てず、ボーイ49名（女子4名）、シニア6名、リーダー32名で実施されました。開会式の直前より降り出した雪は、見る見るうちに積もりだし、セレモニーの終わるまでの僅かな間に2～3センチも積もるといって一味変わった雰囲気感銘を受けました。

技能章実習では、炊事、野営、野営管理、木工の4つの章を対象に2日間に亘って実施し、技能章考查員にも一生懸命な奉仕を戴き、反省材料はあるものの、来期実施に向けて意を強くしました。

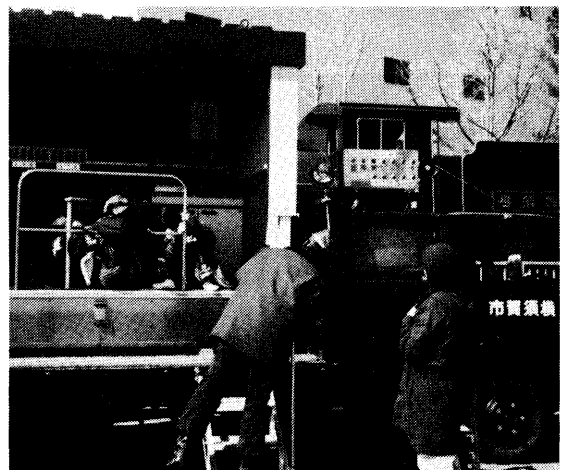
「友達をさそって皆で遊んじゃおう」

横須賀地区主催のBP祭が2月23日、横須賀市稲岡町にある三笠公園と猿島公園を会場に開催されました。今年のBP祭は、地区内のスカウトと公園に遊びにきている親子、それにスカウトが誘ってきた友達と一緒に、友達の輪を広げようと開催されたものです。また、横須賀市消防本部・中央消防署の協力を得て、防災体験コーナーがあったり、地区内各団のウェルカムコーナー、ゲームコーナーなどがあったりで楽しい一日を過ごしました。

ベーデンパウエルの創設したスカウト運動の楽しさ、すばらしさを体験してみようと呼び掛けたこともあって、スカウトと同年代の子供達が次々にコーナーをまわる姿がみられました。消防本部の防災体験コーナーには、起震車と煙体験テントが設けられていて、公園を散歩する人もスカウトと一緒に体験するといった姿も見られました。これらコーナーをチャレンジするとスタンプがもらえるラリー方式になっていることから子供達には人気でした。

一方ボーイ隊は、猿島に船で渡り関所ハイク、6ヶ所の関所にクイズや計測、ロープワーク、暗号とコンパスなどのチェックポイントがおかれしました。

最後にセレモニーがもたれ、BPの業績をおさらいした他、日頃の活動の成果を発揮できたこと、友達と一日仲良くコーナーをまわられたことなどを称え合いBP祭を終えました。



江南地区

◎◎ 団訪問ハイク ◎◎

…あっちか？こっちか？どっちだ！…

2月16日、江南地区は「地区内の各団の活動場所を知り、コミュニケーションをはかる」事を目的とした、BS隊による『団訪問ハイク』を開催しました。

あいにくの雨の中、朝8時30分より地区内のスカウト132名は各自の団に集合し、リーダーより活動中の注意と指示を受け、班長を中心に各班ごとにカップに身を包んで出発して行きました。

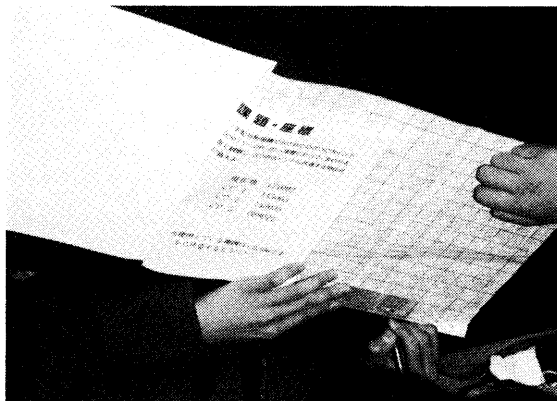
各団は「結索キムス」「ソング」「座標」「救護」、4部門内のひとつが指定されていて、各班はそれぞれに訪問先の団で、課題への挑戦と、挨拶や受け答えの良さなどによる点数で成績を競いました。

また、スカウトには参加カードが渡されていて、課題を終えると各団特製のスタンプやシールを押しもらいます。中には今はやりのプリクラのシールの団もあり、リーダーのやる気と遊び心がうかがわれました。ご紹介したいのですが、紙面の都合で掲載出来ないのが残念です。

地区内の4こ団の訪問は一見簡単そうですが、交通機関のJR東海道線と相模線、バスの乗り換えに手間取ったりで思うようにはいかず、指定された4こ団をまわり終わらない班もありました。

出発時に降っていた雨も昼過ぎにはあがり、午後4時には全員が平塚市青少年会館に集まり、盛大に閉会式と表彰式を行いました。

訪問先では課題を終えると、飲み物やお菓子などの接待をしてくれた団もあり、参加したスカウトたちは、楽しく充実した1日を過ごしました。



湘南地区シニアスカウトフォーラム

果てしなき挑戦

「シシヤパンマ」って聞いたことありますか？これはヒマラヤの8千m級の山の一つです。希夏邦馬（中国語普通話発音）と書いてXI XIA BANG MAと読みます。昨年12月14日から15日の1泊2日で、湘南地区のシニアスカウトフォーラムを御所見野営場で行ったときの基調講演者「松田宏也」さんが登頂した山の名前です。「へー、ヒマラヤに登った登山家の話か……」と思うのですが、この松田さんは単なる登山家ではないのです。

14年前、一度目のヒマラヤ（ミニヤコンカ）へ挑戦したとき、遭難し「奇跡の生還！」とマスコミを賑わした人なのです。なぜ奇跡かといいますと、遭難してからの20日間、自力で下山し、現地の人に発見され一命をとりとめた人なのです。その時凍傷により両手指、両下腿切断となっていました。そうです、今回ヒマラヤに再チャレンジしたときは両手指、両下腿のない状態、つまり義足で挑戦したのです。今回のシニアスカウトフォーラムのテーマとして松田さんの「果てしなき挑戦」をいただき、今後のシニアスカウトの進むべき道を話し合いました。



当日、厳寒の御所見野営場にスカウト達が集合し思い思いにテントを張っている中に、松田さんの姿がありました。今回の講演をお願いしたら、「新しいテントを買ったんで、一緒に泊まっても良いですか？」と聞かれ、私たちとしては願ったり適ったりで二つ返事でOK。

スカウト運動90周年

日本連盟75周年

神奈川連盟50周年

運動の目的と年数を経た意義を考えよう

B Pがブラウンシー島で実験キャンプを行ってから、90周年が経ちました。

スカウト運動も、当初は英国の次代の青少年のために考えられたものが、その内容から瞬く間に世界中に広がり、1922年パリで開催された第2回の国際会議に参加した国数は30ヶ国、スカウト人口は百万程度でした。その後多くの参加を得て2億5千万人をこえる青少年がこの運動を経験しましたが、その間には、いろいろなことが世界中でありました。前述の会議に参加した各国連盟を創始メンバー（Founding Member）と呼びますが、アジアでは僅か2ヶ国しか加わっていませんでした。それは日本とタイ国だけでした。なぜでしょう。歴史を思い起こしてください。ほとんどのアジアの国々が植民地だったので。独立を果たすのは戦後の事です。

オーストラリアも大英帝国の領土で長く英国連盟の支部でした。単独での加盟は1953年に実現しました。

また、その間には有色人種に対する偏見や差別、あるいは宗教上の対立があり、加えて、第一次、第二次の世界大戦があり、人類は悲惨な体験をしました。さらにはイデオロギー対立があり、今から考えれば無用な議論を繰り返しました。社会主義国の崩壊により、一方のスーパーパワーが消えたため、世界的にみれば波風が立たない状況をむかえたかにみえますが、極東では新たな戦争の危険や大量の難民発生の可能性が叫ばれています。我々は過去の経験からあまり多くのことを学んでいないようです。

今後は、民族的対立がキーワードになると指摘する学者もいますが、私達スカウトは一貫して「平和の使徒」でありました。平和を維持するにはそれだけの知恵と工夫が必要です。今や世界スカウト人口は150ヶ国、16百万人を越えています。過去の愚を繰り返さないため、人類にとってより良い社会を創るために、運動精神の原点にたつて世界のスカウト仲間と連携して、平和に対する、そして平和が破られた時の「そなえよつねに」を考えてみる時かも知れません。

仰貝 登堡

シニアの作った夕食を一緒に済ませた後、集会広場に建てた2つのマーキーテントの中で、講演は始まりました。いろいろな場所で講演をしている松田さんでも真冬の外のテントの中の焚き火で暖をとりながらというのは初めての経験だそうです。自分が大学から登山を始めた話、就職するときも登山を続けられるところを捜し、夢を追い続け憧れのヒマラヤに挑戦し、遭難して自力で下山し救助されるまでの生死を彷徨ったこと。中国の病院で絶望感の中から、励まされ生きる勇気をもったこと。つらく、厳しいリハビリのこと。まずは大山から。普通の人の3倍の時間をかけて登り、義足に血まめをつくりながら登る。松田さん曰く、「自分は山が好きだ、こんな体になって一時は山を憎もうとしたこともあったが、こうなったのも山が悪いわけではない。山は本当に美しいものだ。また、自分を助けてくれた中国人達にも報いたい」のだそうだ。

徐々に復活して冬山にも挑戦し、再びマスコミにも取り上げられテレビの特集番組にもなったこと。最後は今回のシシャパンマの話。ビデオを交えてのアツという間の2時間が過ぎてしまいました。体験に基づいた貴重な講演に全員惜しみない拍手をおくって終了し、フォーラムへとはいっていきました。

自分達はなにができるだろうか。自分達の「果てしなき挑戦」とは？いつになく真剣な討議がなされた2日間だったのでは、と思いました。お忙しい中、講演いただきました松田さん、本当にありがとうございました。今度は一緒に山登りをしましょう！



現代ユニフォーム事情

広報委員 小林 明美

90年に日本連盟がユニフォームを全面改訂し、早8年が過ぎた。その新しいユニフォームについては未だに賛否両論があるようだ。片や西欧諸国を中心とした世界では、日本を置き去りにするかのよう目まぐるしくユニフォーム事情が変わりつつある。結論から先にいえば、もはや若者のファッション文化を無視したユニフォームは存続し得ないし、流行の着方も容認していかなくては済まない時代になってきているのである。キーワードは「脱軍隊・カジュアル化」。今回は、若者ファッションを取り巻くキーワードとユニフォームの関係を考察してみたいと思う。

《カジュアル化》昨年の世界ジャンボリーに参加された方々の中には、各国とりわけ欧米のスカウト達の異常にラフなユニフォーム姿に驚かれた方もおられると思う。簡単に言えば「何とだらしのないだろう」と。しかし、これが先進国の実態なのだ。日本と同じ頃にユニフォームを改訂したイギリスでは、伝統的なシャツの代わりにスエットシャツ（トレーナー）を、それも活動着ではなく正装として着用することを認めた。日本、イギリスより10年早くユニフォームを改訂したアメリカでは、ポロシャツの活動着を採用し、これは後に日本連盟の活動着採用に影響を与えた。ユニフォームシャツ、活動着どちらの場合でも、ズボンは私服であるジーンズの着用を認める国がかなり増えている。お父さんの会社でも、金曜日はカジュアルな服装で来るよう奨励されている時代である。カジュアル化は時代の必然である。

《脱軍隊》イギリスでは60年代以前より早々と伝統のスカウトハットの代わりにベレーを採用してきたのだが、そのベレーすらも現在は廃止してしまった。制帽を選択性としているアメリカでも、70年代から80年代にかけて主流だったあの赤いベレーは既になく。現在各国の軍隊がこぞって制帽としてベレーを採用しつつある。日本の自衛隊でも数年前、副帽としてベレーを採用した。そんな中、ベレー＝軍隊というイメージが出来上がり（PKOの青いベレーが象徴的だ）、それが若者がベレーの着用を避ける原因になっているようだ。



《ルーズファッション》だぼだぼのズボンをドーンと落としておく。今時の若者の定番だ。もとはといえば、アメリカ・シアトルで発生した浮浪者が体型に合わないだぼだぼの古着を着ているのを若者がおもしろがって真似、それが先端のファッションショーで取り上げられたことが始まり。ズボンを落としてわざわざパンツ（下着）を見せるのは、CALVIN KLEIN（カルバン・クライン）が広告で、ズボンをずらしてパンツのゴムの“CALVIN KLEIN”のロゴを見せたのが始まり、と言われている。最近のファッションでは、全部XLサイズしか作っていないという過激なメーカーもあるくらい“オーバーサイズド”が今風である。（逆にピチピチの小さめの服を愛用する男女も一部にいるが）。ユニフォームも当然、オーバーサイズドが主流になってきている。現在日連需品部のユニフォームシャツが多少大きめに作られているのも、時代の傾向を反映してなのである。わざわざ「詰めて」着ているあなたは、もう立派なおジサンである。

髪の毛を茶色く（あるいはもっと過激に）染め不精髭を生やし、耳にピアスの穴をあけて、2サイズぐらいの大きめのユニフォームをルーズに着こなすシニアスカウト。こんな若者を受け入れられるかどうか、その隊のリーダーの気持ち次第だが、次はあなたのまっとうなご子息が、急にそうなるも全く不思議でない時代だ。さあ、どうする？

B P 最後のメッセージを原文で読んでみよう

B P' s LAST MESSAGE

Dear Scouts:

If you have ever seen the play "Peter Pan" you will remember how the pirate chief was always making his dying speech because he was afraid that possibly when the time came for him to die he might not have time to get it off his chest. It is much the same with me, and so, although I am not at this moment dying, I shall be doing so one of these days and I want to send you a parting word of good-bye.

Remember, it is the last you will ever hear from me, so think it over.

I have had a most happy life and I want each one of you to have as happy a life too.

I believe that God put us in this jolly world to be happy and enjoy life. Happiness doesn't come from being rich, nor merely from being successful in your career, nor by self-indulgence. One step towards happiness is to make yourself healthy and strong while you are a boy, so that you can be useful and so can enjoy life when you are a man.

Nature study will show you how full of beautiful and wonderful things God has made the world for you to enjoy. Be contented with what you have got and make the best of it. Look on the bright side of things instead of the gloomy one.

But the real way to get happiness is by giving out happiness to other people. Try to leave this world a little better than you found it and when your turn comes to die, you can die happy in feeling that at any rate you have not wasted your time but have done your best. "Be Prepared" in this way, to live happy and to die happy ... stick to your Scout Promise always ... even after you have ceased to be a boy ... and God help you to do it.

Your friend,
Baden-Powell of Gilwell

(Found among Baden-Powell's papers after his death, January 8th, 1941)

英国連盟発行「スカウティング・フォア・ボーイズ」34版より引用

「知っていると思えた気分、でも知らなくても恥ではないスカウティングのあれこれ」

はじめての年シリーズ

- ・カブ部門が始まったのは何年・・・1916年
- ・最初の指導者訓練が始まったのは何年・・・1919年
- ・第1回世界ジャンボリーは何年・・・1920年
- ・最初のローバームートは何年・・・1931年
- ・第1回アグーンの開催は・・・1949年
- ・50ヶ国、5百万人を超えた年は・・・1950年
- ・アジア初の世界ジャンボリーは・・・1959年

スカウティングが存在したが今は中断している国
(アジアのみ)

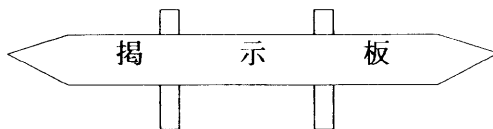
- ・アフガニスタン 1978年以来
- ・ビルマ(ミャンマー) 1964年以来
- ・中国(大陸) 1950年以来
- ・ラオス 1975年以来
- ・ベトナム 1975年以来



「スカウトの語源」

SCOUTとは古フランス語のESCOUTEから派生する語で、意味は「聞く」ということである。ESCOOTEから変化して、日本語でも最近では使われるエスコート、即ち、相手の要望を聞いて行動することをESCORT、そして西部劇に出てくるように、人から色々情報を聞いて敵情を探る者をSCOUTと言い、同義語にはSPYがあるが、語源にもっと近い表現を残しているのは、同じラテン語族のポルトガル語で、今でもスカウトのことをESCOTEIROと呼ぶ。

さて、我国の連盟歌には「耳そばだてて聞き出せ」という歌詞があるが、果たして偶然の一致なのだろうか、それとも先人が本来の意味を知っていてあえて挿入したのだろうか。今では聞き出す術もない。皆鬼籍に住む人達である。



第11回神奈川キャンポリー

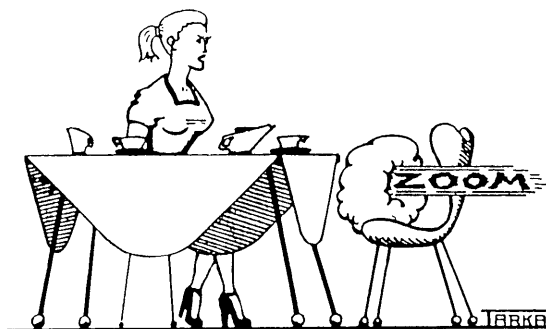
既報どおり開催予定です。

期間 平成9年8月8日～8月12日

場所 静岡県富士宮市 朝霧高原
(第13回世界ジャンボリー跡地)

イラストで見る世界のスカウティング

「ビーズの到着を心待ちにする夫と無関心な妻」
(ウッドバッジャーの気持ちは同じ)



“革の靴紐に2つのビーズがついた馬鹿馬鹿しいものを送って来たんでごみ箱にすてたわよ”

(米国連盟発行、A History of Wood Badge in the United Statesから転載)

平成9年3月25日 “やまゆり” 81号
発行人 日本ボーイスカウト神奈川連盟
理事長 高橋 幸夫
横浜市旭区中尾2丁目1番14号
スカウト会館 045 (365) 3421
編集人 県連広報委員会 富澤 準治
印刷所 佃金港堂 横浜市神奈川区松本町
2-14-1 045 (322) 0234